

森戸川下流域の水生生物調査結果

調査日時：2004年6月9日 14:30~17:00
 気温：19.4℃
 調査地：神奈川県三浦郡葉山町森戸川河口より木ノ下橋まで
 天候：曇り
 水温：不明

森戸川の概要
 河川延長 L=2000m 流域面積 6.97km² (降雨等が流入する面積)
 神奈川県横須賀土木事務所河川砂防課より

調査者：武蔵工業大学 田中章研究室
 久喜伸晃 小俣宏 新井聖司 伊藤喬徳
 佐藤勇 佐藤勘才 鈴木浩晃 田中亨



写真1 ウナギ
 今回の調査ではウナギも捕獲することができた。体長20~100cmほどで、腹ビレを持たない。
 (日高 1998)



写真2 グッピー
 南米原産の移入種。観賞用の熱帯魚として輸入され、温泉地周辺で野生化している。暖水性の魚種であるため、主要都市とその周辺水域を生息地とする傾向がある。(Web1)



写真3 ママチチブ
 アシの根元で捕獲。河川の中下流域に生息する。チチブとよく似ていて混同されやすい。
 (浜口 1995)



写真4 アゴハゼ
 北海道から種子島、朝鮮半島に分布する。エビ類を主に食べ、体長75mmに達する。体に小黒点が散在することが特徴。
 (能勢幸雄ほか 1989)



写真5 ヌカエビ
 本邦固有種で、本州のみに産する。淡水系で、流れの弱い川や池・沼に生息している。額角の棘の状態でヌカエビと区別することができる。(鈴木 1987)



写真6 ヨシノボリ
 北海道を除く日本全国に分布。森戸川における魚類の代表種。森戸川におけるヨシノボリ類の個体数ではシマヨシノボリが95%、クロヨシノボリが5%とシマヨシノボリが優占していた。
 (斉藤・林 1999)



写真7 テナガエビ
 体長8~10cmほどの淡水産エビ。体色はやや透明感のある緑褐色。十分に成長したオスの第2脚は、体長の1.5倍以上になる。雌は体がずんぐりして、第2脚も細く短い。(下山 1999)

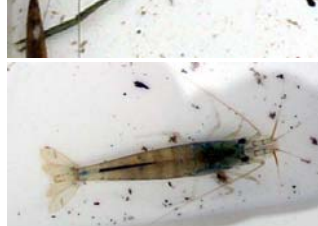


写真8 スジエビ
 神奈川県内の川や湖、沼などに広く分布している。基本的に淡水を好むが、稀に汽水域にも生息している。
 (三宅 1982)

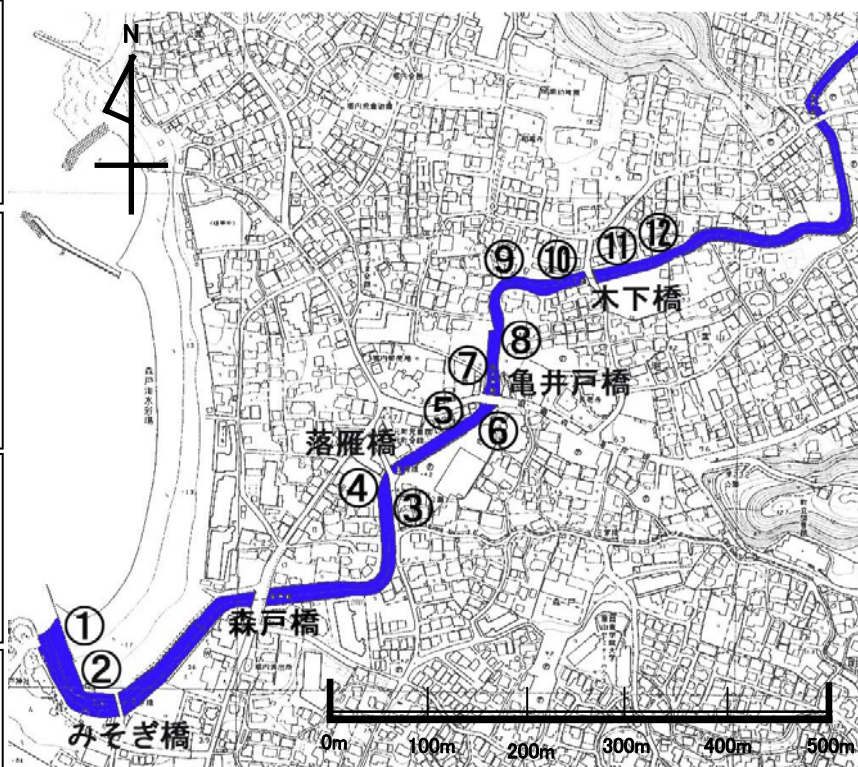


写真9 河口付近
 河口付近では、クサフグやボラ等の、海や汽水域に生息している生物を採集することができた。



写真12 図③地点
 周辺に緑はあまりなく、支流からの流れが本流に注いでいた。水面には、家庭排水と思われる油のようなものが浮かんでいた。



写真10 亀井戸橋付近
 亀井戸橋付近では河口に比べ水量が少なくなっていた。アシなどの水草の下からは、ウナギなどを採集した。



写真13 図⑨地点
 川が湾曲しており、淵になっていた。ウナギ、シマヨシノボリを採集することができた。ボラの稚魚が複数確認できた。



写真11 森戸橋付近
 森戸橋付近では川の側面に人工的に作られた「魚のすみか」があった。これは魚類等呼び戻そうと葉山町環境課が主催し、町民が協力してつくったものである(Web2)。水量が少なかったため、水面上に出てしまっていたが、満潮時の水位の上昇によって水面下に沈むことが、壁に残る水量の跡からも知ることができる。付近では、コイ、カニ、エビなどが採集できた。

表 森戸川下流域調査範囲で確認された生物

分類	和名	学名	科	確認された地点	確認された場所の特徴	在来種か外来種かの判別	流域性の有無	
魚類	ウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	ウナギ科	⑥⑦⑨⑫	ヨシの根元	在来種	有	
	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>	コイ科	⑤	浅瀬、橋の下の深み	在来種	無	
	ボラ	<i>Mugil cephalus</i>	ボラ科	①②⑩	浅瀬、ヨシの根元	在来種	無	
	グッピー	<i>Poecilia reticulata</i>	カダヤシ科	④	ヨシの根元	外来種	無	
	アゴハゼ	<i>Chaenogobius annularis</i>	ハゼ科	②	浅い岩場	在来種	無	
	ヨシノボリ	<i>Rhinogobius brunneus</i>	ハゼ科	⑦⑨	浅い岩場	在来種	有	
	ママチチブ	<i>Tridentiger kuroiwae brevispinis</i>	ハゼ科	⑥	ヨシの根元	在来種	有	
	クサフグ	<i>Takifugu niphobles</i>	フグ科	①②④	浅瀬、橋の柱のよども	在来種	無	
	甲殻類	ヌカエビ	<i>Paratya compressa improvisa</i>	ヌカエビ科	②	ヨシの根元	在来種	無
		スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i>	テナガエビ科	②	流木に張り付いた枯葉	在来種	有
テナガエビ		<i>Macrobrachium nipponense</i>	テナガエビ科	⑥⑧	ヨシの根元	在来種	有	
モクズガニ		<i>Eriocheir japonicus</i>	イワガニ科	②	浅い岩場	在来種	有	
ヒライソガニ		<i>Gaetice depressas</i>	イワガニ科	②	浅い岩場	在来種	無	
アシハラガニ		<i>Helice tridens</i>	イワガニ科	⑤	ヨシの根元	在来種	無	
貝類	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>	イタボガキ科	②	浅い岩場	在来種	無	
	クボガイ	<i>Chlorostoma lischkei</i>	ニシキウズ科	②	浅い岩場	在来種	無	

注)表での流域性とは、生物の生活史上で川のつながりを必要としているものをいう。同定は(中坊 2000)、(三宅 1982)を使用。

考察

今回、森戸川で調査を実施して判明したことは、私達の調査した区間が短いにもかかわらず、上流から下流にいくなつて生息する生物が変化していく様子がうかがえたことであった。例えば、河口から300mぐらい上流までクサフグが見られたが、その地点から次第に姿を消し、河口から500m上流にいくとウナギやママチチブが現れたことである。

森戸川は流域という概念を理解しやすい川であると感じられた。また、護岸工事がされている割には水辺の周りに植物が多く、その下で生物が生息することが可能な環境ができていた。それは上流に向かうにつれて顕著であった。しかし、川の水に油が浮いていた点に関しては残念であった。

引用文献

- 中坊徹次, 2000. 日本産魚類検索 全種の同定第二版, 東海大学出版会.
- 三宅貞祥, 1982. 原色日本大型甲殻類図鑑 (I), 保育社.
- 浜口哲一, 1995. 淡水魚. 神奈川県レッドデータ調査団編, 神奈川県レッドデータ生物調査報告書.
- 鈴木博, 1987. 逗子における川・溜池の動物, 逗子市史, 別編 I. 自然編.
- 斉藤和久・林公義, 1999. 森戸川(三浦半島)におけるヨシノボリ類の分布様式と個体数増減, 神奈川自然史資料.
- (Web1), オヤニラミ倶楽部. <http://members.jcom.home.ne.jp/1645242811/oyanirami/top.html>, 2004/10/18.
- (Web2), 葉山は今日もお祭り日和. <http://www.hayama-kuretake.net/hayamainfo/eventreport/eventreport.htm>, 2004/10/18.
- 能勢幸雄ほか, 1989. 魚の辞典, 東京堂出版, 東京.
- 日高敏隆, 1998. 中村徹次・望月賢二編, 日本動物大百科 第6巻, 平凡社, 東京.